

小山市城東地区街角広場デザインコンペ

【一席】 中町仁治

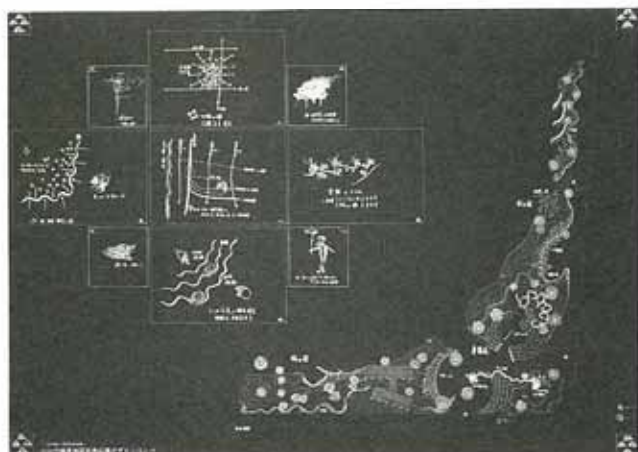
所属：空間計画207(東京都) 共同設計者：飯田克男

●審査委員講評

小山市にとっては初めての全国規模のデザインコンペであったが、149点という我々の予想(期待)をはるかに越えた応募数を記録した。「街角広場」という比較的身近で具体的なテーマ設定と、実施を前提とするデザインコンペであることが、より多くの建築家や環境デザイナー、学生、市民諸氏の興味と意欲をそそったものと理解している。そのせいもあって、応募作品は力作ぞろいであり、真正面から新しい街角広場の実現に取り組んだ真摯な作品が目立った。その点では、応募していただいた方々の努力と労力に敬意を表したい。

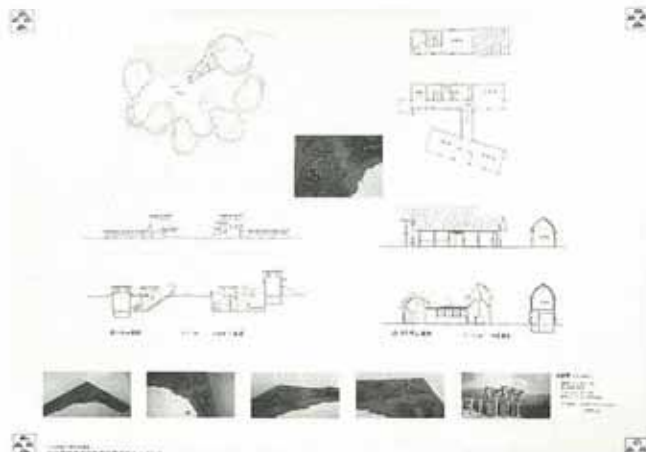
しかし今回のコンペでは、力作であることがそのまま高い評価につながった訳ではない。中小都市の街角広場という、どこにでもある小規模な公園のコーナースペースとしては、ややデザインしすぎの傾向が見られたし、建築や工作物に比重を置きすぎた作品も少なくなかった。今回のコンペは、「街角広場」とは何か?、「街角広場」をどう捉えるかということがデザインのあり方に深く関わってくるように思われた。そこで審査委員会でも、先ずそのような議論を行なった上で本格的な審査を開始している。その際、この「街角広場」は小山市における新市街地の都市的景観を創ってゆく出発点であり、街の新しい顔になるべき性格をもっていること、街と公園との接点をどのように提案するかが重要であること、「広場的街角」として誰でもが自由に出入りできること、ハード面だけでなくソフト面での提案も必要であること、などが確認された。

審査はおおむね三段階に分けて行なった。第一次審査では、すべての作品の中から各委員が10点程度を選出し、それらを合わせた34点を第二次審査へ回した。第二次審査では34点をさらに詳細に検討し、各委員の評価を交えながら上位11点を選出した。第三次審査は、これらを1点ずつ討議し、コンセプトやデザイン、実施の際の問題点なども検討した上で一席1点、二席2点、佳作4点を選出した。なお佳作に関しては、改めて応募作品すべての見直しを行なっている。



【二席】 佐藤博久

所属：博(BAKU)建築研究室(東京都)



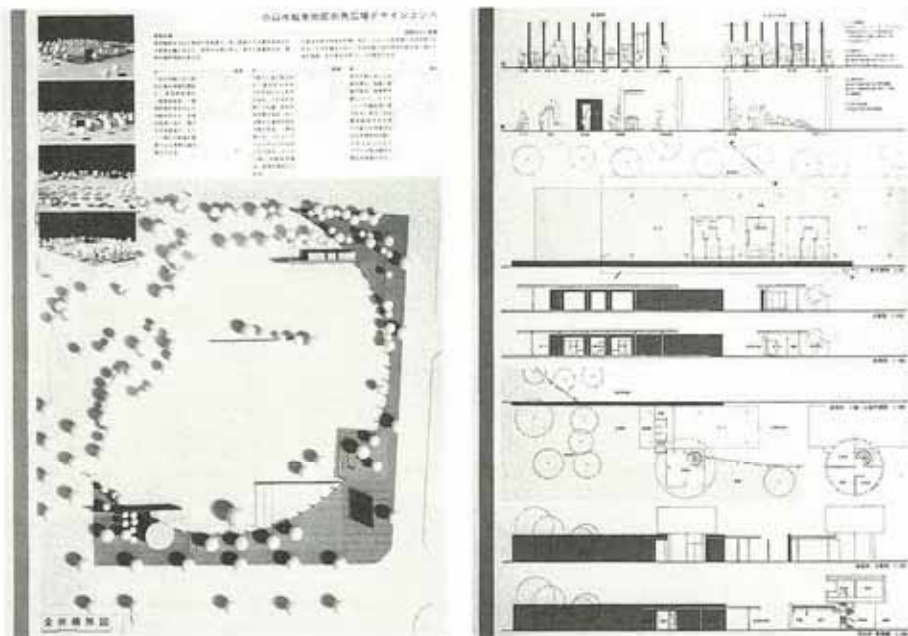
一席の中町氏の作品は、まず独創性とデザイン的な統一感が評価された。コーナーに平面的な円形の広場を設ける案が目立つ中で、この作品は円形広場を地下に埋め込み、外部からの視線を避けた市民のふれあいの場を提案している。円形広場で直角に交わる斜めの軸線は都市的な緊張感を生み出しており、水や芝生を用いた幾何学的な広場も魅力的で洗練されている。市民がこの広場をどう使いこなすかという今後の課題をも提起した秀作と言える。ただ実施にあたっては、既存の樹木を中心とした緑の確保と、将来計画となる派出所の在り方についての検討が要求されよう。

二席の佐藤氏の作品は、応募作品の中では唯一、風土性を感じさせる作品である。新しい市街地の顔としてふさわしいかどうかは疑問であるが、コンセプトの明確さは十分に評価できる。ただ、半地下のトイレに対しては衛生上、防犯上の疑問があらう。

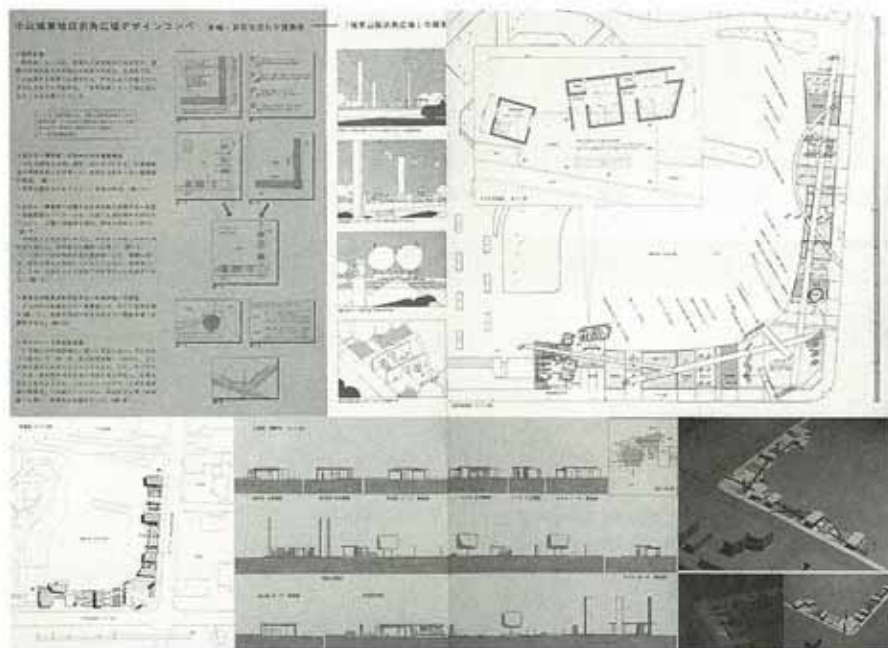
二席の藤岡氏の作品は、やや抽象的ではあるが洗練されたデザインと壁のコンセプトが評価された。禁欲的すぎるとの評価もあがったが、逆にそれがこの作品のねらいでもあらう。ただ、図書館に接近したトイレの位置にはやや疑問が残る。

佳作は当初から点数が決まっていたわけではなく、入選作を選ぶ段階で最終的に4点となった。したがって二席との差はほとんどなく、中には最後まで一席を争ったものも含まれている。坪山氏の作品は樹木と芝生と水の質感を活かした独特の広場を提案しているが、スケール的にはやや疑問であらう。清水氏の作品は特にデザイン的なおもしろさが評価されたが、やや工作物に凝りすぎの感があった。正井氏の作品は水と船をコンセプトにした現実的な案であるが、シンボルとなる塔のデザインにやや物足りなさが残った。佐々木氏の作品はコミュニティ回廊を意識した点や建物のデザインが評価されたが、全体的に工作物が多く、やや雑然としているのが惜まれる。

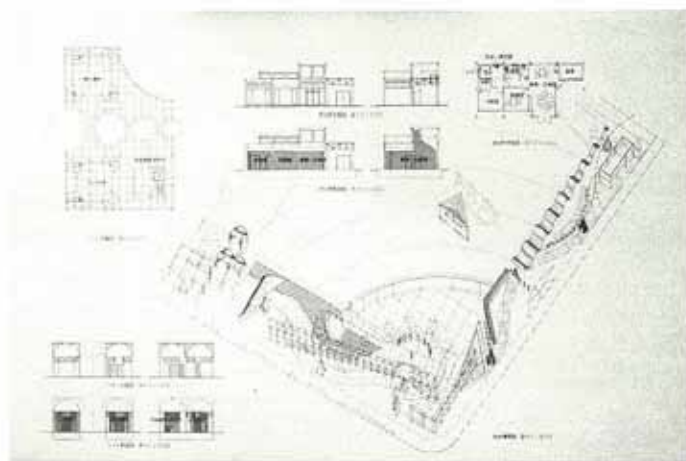
河東義之(審査委員長)



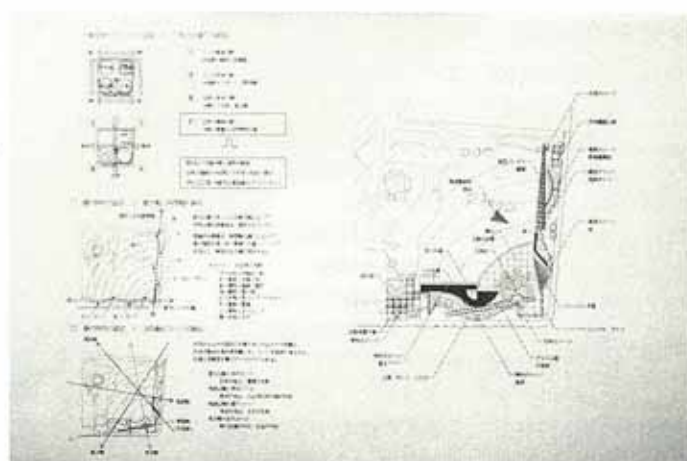
【二席】藤岡 勲 所属：昭和アルミニウム株式会社(東京都) 共同設計者：有馬立郎、行事英雄

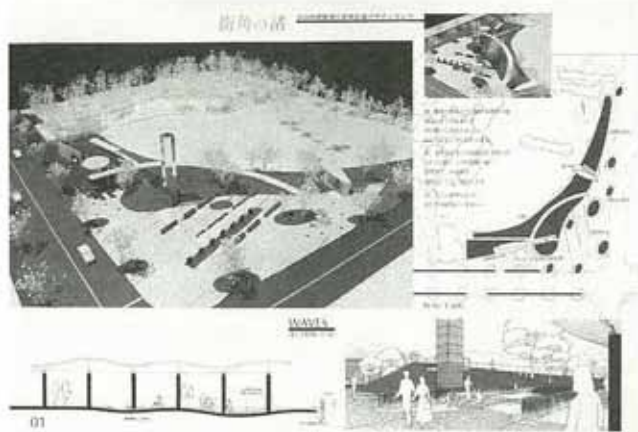


【佳作】坪山幸王 所属：日本大学理工学部海洋建築工学科(千葉県) 共同設計者：佐藤信治、石井昭博、林 正輝、福田昌弘、石塚義隆、関谷和則、館 吉保、清水信友

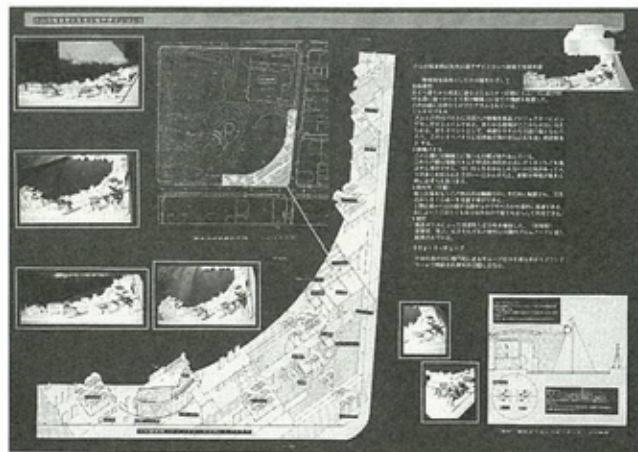
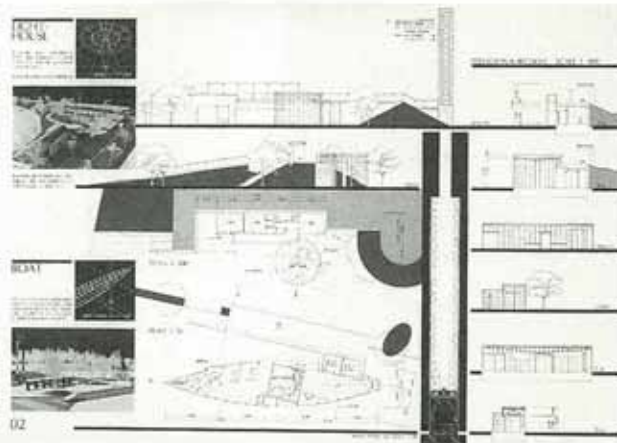


【佳作】清水由行 所属：株式会社アレフ(橋本県)

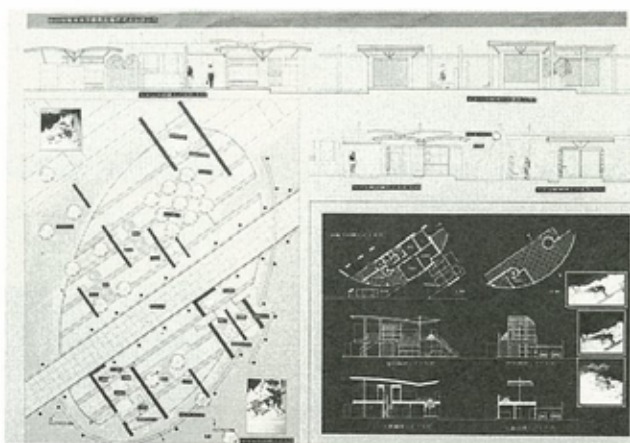




【佳作】正井 徹 所属：正井徹建築設計事務所(大阪府)



【佳作】佐々木 満 所属：株式会社ナイカイアーキテクト一級建築士事務所(岡山県)



審査委員略歴



河東義之
(かわひがし・よしゆき)
建築家

東京工業大学工学部卒。同大学工学部助手を経て国立小山工業高等専門学校教授。栃木県マロニエ建築賞審査委員、栃木県都市計画地方審議会委員、栃木県文化財保護審議会委員、小山市跨れるまちづくり委員会委員長、小山市都市整備委員会地区整備計画部会会長
主な著書：「明治の西洋館」、「ジョサイヤ・コンドル建築図面集」、「建築探偵術入門(共著)」など。



上山良子
(うえやま・りょうこ)
ランドスケープアーキテクト

上智大学英語科卒、カルフォルニア大学バークレー校環境デザイン学部大学院ランドスケープ学科修了。CHNMB(旧ローレンス・ハルプリン事務所)を経て1982年帰国後上山良子ランドスケープデザイン研究所を設立し、現在に至る。武蔵野美術大学非常勤講師。
主な作品：日立市科学博物館屋上庭園、芝浦シーバンス基本・実施設計/現場監理、広島空港庭園都市基本構想、岐阜駅南口基本計画など。



土田旭
(つちだ・あきら)
都市デザイナー

東京大学工学部建築学科卒、同大学大学院博士課程修了。同大学都市工学科助手を経て1970年株式会社都市環境研究所を設立し、代表取締役所長に就任、現在に至る。
主な作品：広島市都心基本計画、船橋市〈都市軸〉計画、日立駅前地区都市デザイン計画・設計・調整、弘前市都市景観形成基本計画、幕張都心住宅地都市デザイン計画・設計・調整など。

コンペの概要

◆競技の日程

| | |
|--------------|-----------------------|
| 平成6年5月24日(火) | コンペ実施の記者発表 |
| 6月23日(木) | コンペ案内、ポスター・チラシ発送開始 |
| 7月 8日(金) | 応募要領配布及び登録開始 |
| 8月 1日(月) | 登録締切(登録件数429件) |
| 7月18日(月) | 質疑受付開始 |
| 8月 4日(木) | 質疑受付締切(質疑件数91件) |
| 8月16日(火) | 質疑応答書発送 |
| 9月16日(金) | 応募設計図書受付開始 |
| 9月26日(月) | 応募設計図書受付締切(受付作品数149点) |
| 10月14日(金) | 作品審査 |
| 10月19日(水) | 入選発表 |
| 11月 1日(火) | 入選者表彰式・シンポジウム |
| 11月 1日(火) | 作品展示(～11月7日(月)) |

◆賞金

| | |
|-------------|-------------|
| 一席(1点)..... | 賞状及び賞金100万円 |
| 二席(2点)..... | 賞状及び賞金 10万円 |
| 佳作(4点)..... | 賞状及び賞品 |

職域別登録・作品提出者数

| 職業 | 登録者数 | | 作品提出者数 | |
|------------------|------|--------|--------|--------|
| | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) |
| ゼネコン・建設会社 | 42 | 9.8 | 11 | 7.4 |
| 設計・計画・コンサルタント事務所 | 272 | 63.4 | 101 | 67.8 |
| 学生(大学・大学院・専門学校) | 56 | 13.0 | 17 | 11.4 |
| 研究室(助手・教員) | 16 | 3.7 | 9 | 6.0 |
| 公務員 | 5 | 1.2 | 0 | 0.0 |
| 個人(フリー) | 24 | 5.6 | 7 | 4.7 |
| その他 | 14 | 3.3 | 4 | 2.7 |
| 計 | 429 | 100.0 | 149 | 100.0 |